

理研会報

発行
 理研会報
 事務局
 成田市小川町48-1
 成田小学校

新年度をむかえて 研究部長 飯田和幸

新緑がその清さを増し、初夏の訪れを感じます。希望に満ちた一年の終りにも落ち書きがみられるこの頃、先生方にはますます健康で二活躍のこととお喜び申し上げます。

田頃のなほ研修と努力が多方面に亘り実績をあげ、更にその積みあげを力強くおし進める先生方の熱意とご協力に對して深く感謝申し上げます。

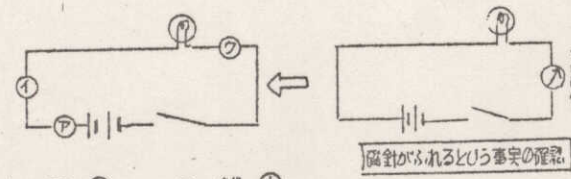
理研会報も回数重ね、先生方におなじみになってきたと喜ばれておられるものと思ひます。今年も実践・体験の記録、資料の紹介、意見交換等々多く取りあげ、お互いの研修の一助とするため種々工夫をこらし、二期待に迫りたい所存です。先生方のお力でもりもあげていきたいと思います。

本年度も現場の研修に密着し案件をふまえた指導上の具体的な諸問題を一つの解決し実践してゆくとともに、二期待に迫りたい所存です。先生方のお力でもりもあげていきたいと思います。

理科の学習

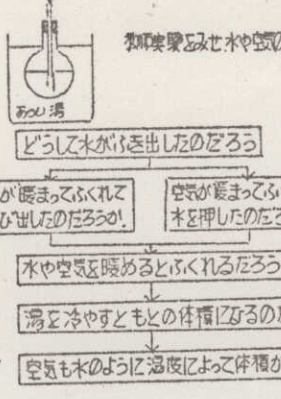
成田小 徳田 進
 昨年度も現場の研修に密着し案件をふまえた指導上の具体的な諸問題を一つの解決し実践してゆくとともに、二期待に迫りたい所存です。先生方のお力でもりもあげていきたいと思います。

ようなくふらば必要かについて提案、討議がなされました。その中で、討議の熱点となったのは、①子どもが主体的にとりくめるようにするためには、エネルギー的な現象をどのようにとり上げていくか、②教材が明確になっているか、③指導過程の構造化しているか、④について、まず子どもが主体的になるためには問題意識をもたせること、そのためには課題の提示を工夫する必要があること、例之は、電流と磁針のふれについて次のような提示の工夫がなされていく。



①ふれるむきがちがうはなぜか。(方向性)
 ②もっとふれが大きくなるにはどうしたらよいか。(磁場)
 ③なぜふれるのなるらうかはなぜか
 ④磁化するもの、これらもの(コイル、子どもたちと同じスワートライオン)を引き上げてやる。

そして事実を手がかりに思考を練るといつたことにならう。⑤については、例之は、「温度と水の密度のふれ方」の単元を扱った。



と、おしすすめていく。その中から授業のはじめから「なぜ？なんだらう？」おかしなところ、そのおもしろさが問題把握へと発展し主体的な学習となるのであろう。このように教材を明確にする教材の見方も大切ではないか等々が強調された。

今後残された問題として
 ①効果的指導を支えるもの
 ・子どもの認識の程度をいかに把握したらよいか。
 ・指導を追求する過程で子どもに満足感(うれしい・楽しい・もつと続けたい)を与えるような指導を相み合わせるにはどうしたらよいか。
 ・高果に對する喜びを与える授業の構成などのようにしたらよいか。

教材の内容の精選(重点化) 教材性を明確にする。 問題解決がやり易いことが考慮される。 単元の位置づけを正確にさせ能力の累積をはかる系統化等の研究をおしすすめる必要がある。

②評価について
 ・ある行動から児童の姿容をみとどける手立てはないだろうか。
 ・行動目標を定め、指導のステップにおいて評価したり指導後に評価する。
 ・川学校は知識より理解するまで大切にした評価が必要。
 ・低学年一観察を大切にした評価

③自然科の学習をどうかわからせるか。
 ・実験とは何かを考ふる。 たとえば、「温度と水や空気のふれ方」の実験は「どうして水がふくらんだのか」という課題が中心となる。この課題は、水や空気の膨張が水の膨張がどうなるか、水や空気の膨張も考ふるべきではないか、水や空気の膨張も考ふるべきではないか、水や空気の膨張も考ふるべきではないか。

・実験では類似と近似の二つを大切にした。類似は事実の正確化、一般化、近似は濃縮等々の問題を追求してゆくことが大切となる。
 ・昭和四十九年度役員
 研究部長 飯田和幸
 副部長 空井 典夫
 一部会長 飯田 隆
 二部会長 平山 正一
 三部会長 伊藤 忠天
 四部会長 川勝 幸三
 幹事 岡崎 賢一
 手塚 隆雄
 武藤 正雄
 古谷 弘
 森沢 敏明
 五味 健

あともがき
 ◎たいへん遅れおししたが本年度第一号をおとすります。
 ◎七日中に次号をおとす予定です。
 ◎理科屋にそなえ夏休み中の指導もはじめて下さい。